




国宝探訪 NO.39 ^{かんたに}神谷神社本殿 ～現存最古の流造本殿～ 鎌倉時代(1219年) 香川県坂出市

香川県には2棟の国宝建造物があります。そのうちの一字が神谷神社本殿です。



三間社流造りの本殿は、檜皮葺の屋根・檜鉋仕上げの丸柱・大面取りの向拝の角柱などに鎌倉時代の建築様式がよく表現されており、築造年が明確な流造の神社建築としては、わが国最古といわれています。柱上の組物は舟肘木、向拝は三斗組で、妻飾は豕叉首となっており、また高欄部分の架木端は反りが少なく古制を伝えています。簡素で素朴ながらも端整な美しさを見せ、また鎌倉時代の建築技法を今に伝える貴重な神社建築として、地元の人々によって守られ、現在まで存続しています。

今回の取材では、最寄駅からタクシーで現地へ向かいました。その車中で運転手さんから「お宮は去年火災に遭ったそうですよ」と予期していない驚きの話を聞き、「瀬戸内を渡ってはるばるここまで取材に来たけれど今回は記事が書けないかもしれない・・・」と愕然としながらも現地に向かったのです。(2.3ページに続く)

2月の活動報告

- 2.14(火) 建築模型作り体験講座(ものづくり体験館)
- 2.23(木)  構造学習会(オンライン)

3月の活動予定

- 3.10(金) 建築模型作り体験講座(ものづくり体験館)
- 3.23(木)  建築相談(姫路市役所)
-  構造学習会(オンライン)

活動報告 [第9回構造学習会] 2月23日(木)

「はじめての木造耐震等級」(CPD 2単位 / 1回)の第9回目を2月23日(木)にオンライン(ZOOM)にて開催しました。「片持ち梁の計算」という内容で、兵庫確認検査機構の景山先生に事例を使いながら木造での片持ちの特徴に気を付けることなどわかりやすく解説いただきました。

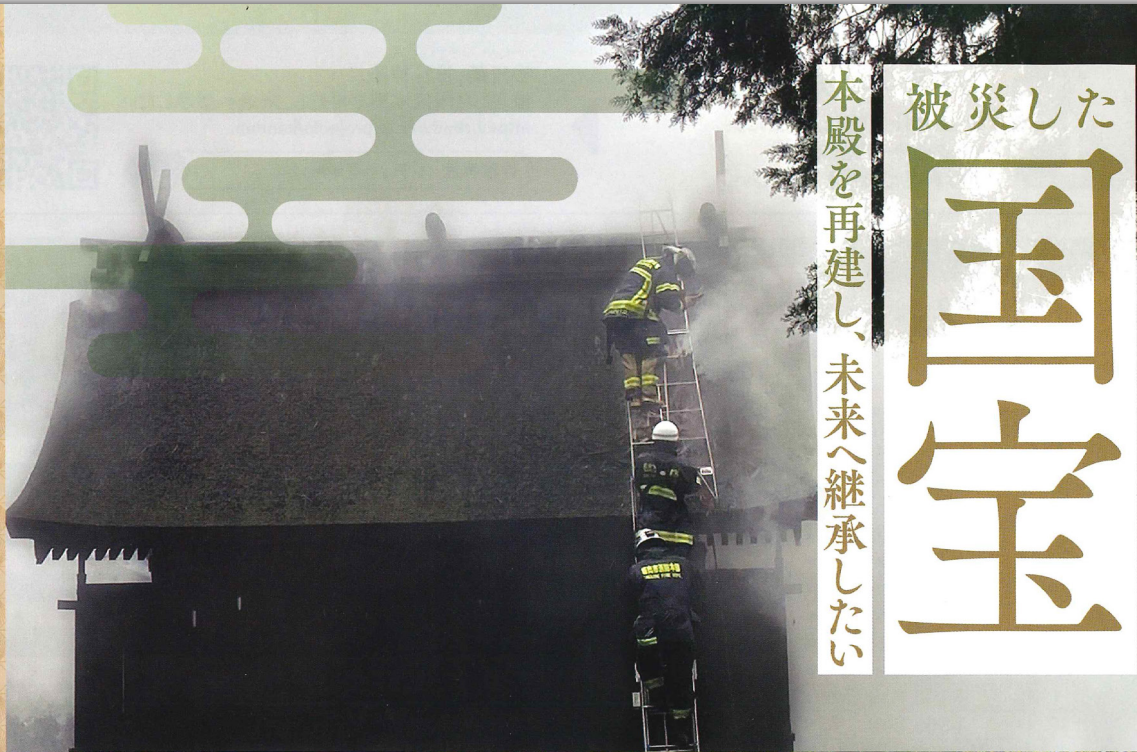
講義途中に講師の設問に対して受講生がチャットで回答するという方法で受講生の出席と受講生の理解度の確認をしています。受講人数は7名でした。欠席された方には、講義ビデオをクラウド上にアップし聴講できるようにしています。次回は今年度の最終回で3月23日(木)に開催予定です。

次年度も引き続き「木構造」について全10回の講義を予定しています。

(報告: 構造学習会幹事 石原 弘一)

香川県坂出市 神谷神社

クラウドファンディング挑戦中



被災した
国宝
本殿を再建し、未来へ継承したい



2022年9月27日正午頃、神谷神社本殿は落雷による火災に見舞われ、屋根が焼損いたしました。不幸中の幸いで人的被害はなく、同日16時30分には鎮火しましたが、屋根材の多くの部分が炭化してしまいました。懸命な消火活動により、文化庁から「国宝としての価値は損なわれていない」との見解を示していただきましたが、修復には多額の費用が掛かります。地元の氏子様が少ないこともあり、どうしても私たちの力だけでは十分な修復を行うことが叶いません。そこでこの度クラウドファンディングを通じて、皆さまのお力をお借りし、本殿を元の姿に修復したいと考えております。悠久の時を経て守り受け継がれてきた、大切な心のよりどころである神谷神社を未来に継承していくために、あたたかいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



支援募集期間 開始 2022年11月14日(月) 0時 → 締切 2023年1月11日(水) 23時

第一目標金額 1,000万円 いただくご支援の使い道 神谷神社本殿の檜皮葺きの屋根の修復費、その他施設の修繕費、クラウドファンディングの諸経費



神谷神社(かんだにじんじゅ)

神谷神社は、弘仁3(812)年、香川県坂出市神谷町にて創建された神社です。本殿は鎌倉時代の建保7(1219)年に創建され、三間社流造の神社建築としては国内で最も古い社殿で、昭和30年に国宝に指定されています。



クラウドファンディングとは
インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。All or Nothingというルールで、万が一目標金額に届かなかった場合、集まった支援金は支援者に返金となります。

ご支援・詳細は下記のサイトをご覧ください
<https://readyfor.jp/projects/kandani>

神谷神社 レディーフォー



クラウドファンディング呼びかけのチラシ

神谷神社提供

「中を観られますか？」と、参道を掃除されていた神社関係者の方から思いがけないお言葉をかけていただきました。おそらく、塙外を行ったり来たりして写真を撮っている私の姿を遠方から気づかれて、みかねてのご厚意だったのでしょうか。「ありがたい！」願ってもない取材の機会となりました。

「昨年、落雷に見舞われまして、・・・」と中を案内されながら、当時の様子を生々しく語っていただきました。

国宝である当神社は、裏山を控えた立地条件のため、創建以来落雷は裏山に落ち、建物に落ちたことはなかったそうです。平地だと当然避雷針を設置するのですが、そのような歴史があったため、落雷するとは思ってもみなかったそうです。雷の大きな音がすると、「あっ、また裏山に落ちたんだ」と思われるそうですが、今回もそのように考えながら本殿のほうを見ると、驚くことに屋根から煙が上がっているのを発見し、急いで消防署へ通報されたそうです。落雷のため、消火栓設備は電気系統がすべて被害を受け作動せず、消火器も高い位置までは届かず、ただひたすら消防隊の到着を待つだけの状態だったそうです。

「自家発電装置を備えた消火設備が必要だった」と、想定外の事態に見舞われたようです。

「これが日中で幸いしました、夜中だと気づかなかったかもしれない」

翌日、文化庁から早速見に来られ、「残存部分が多いので国宝の価値は損失していない」とおっしゃられ、その後早速クラウドファンディングを立ち上げ、幸いにも金額には到達したそうですが、「これからは、避雷針の設置、調査設計、そして修理工事と3年間かかります。」と今のお気持ちを語っていただきました。

日頃、この避雷針がなければ美観上もっと素晴らしいのに・・・といつも文化財を見ながら感じていた私ですが、今回のお話を聞き、落雷のメカニズムの一端を知り、文化財における消火設備の重要性を新ためて実感した次第です。

この度取材にご協力いただいた神社関係者の方方に心よりお礼申し上げます。



野面積の基壇



反りの少ない高欄



大面取りの向拝柱



焼け跡が今も残る北面妻飾



古制を残す豕叉首



破損していない落雷部分の棟鬼



落雷部分の千木北東先端



保管されている棟飾り



電気系統が被災した消火栓

(写真・文：西嶋 宣久)